第36回　日本ダウン症療育研究会

2024年 2月17日（土）13:20～　長崎大学医学部良順会館

参加費：　会員 / 無料　非会員 / 2,000円

会場開催＆ZOOM配信

主催：日本ダウン症療育研究会
共催：長崎大学医学部原研遺伝、
長崎大学生命医科学域保健学系、
バンビの会（染色体障害児・者を支える会）

大会長：近藤達郎
（みさかえの園むつみの家）

プログラム

開会の辞　大会長挨拶　近藤達郎

教育講演　ダウン症候群の精神的問題と対策
13:30-14:30　今村　明（長崎大学生命医科学域保健学系）

座長　吉浦孝一郎
（長崎大学医学部原研遺伝）

一般演題　募集します
14:30-15:30　（別紙をご参考の上、是非ご応募ください）

座長　佐々木規子
（長崎大学生命医科学域保健学系）

15:40-16:00　「総会・赤ちゃん体操認定授与式」

特別企画「パタカラプラス」について
16:10-17:00　「パタカラプラス」の概要とコンテンツ
近藤達郎（みさかえの園むつみの家）
「パタカラプラス」の自動評価
三嶋博之（長崎大学医学部原研遺伝）

座長　森藤香奈子
（長崎大学生命医科学域保健学系）

第37回大会の紹介、閉会の辞　玉井　浩（日本ダウン症療育研究会会長）
17:00-

＊一般演題の状況で時間が若干変更される可能性がありますことご了承下さい。

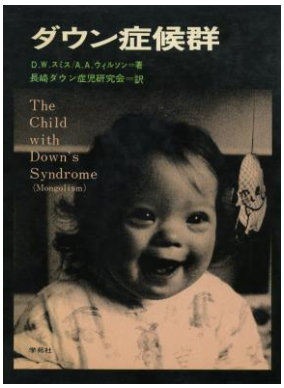
単位（申請中）
（会場参加のみ）
●小児科専門医単位　●臨床遺伝専門医単位
●認定遺伝カウンセラー単位　●GMRC単位

この時期は長崎ランタンフェスティバルが開催中の予定です。
皆様のご来場、心よりお待ち申し上げます。

お問合せ：日本ダウン症療育研究会事務局
k.jspcdds@gmail.com

ご 挨 拶

日本ダウン症療育研究会は、1976年に始まったとお聞きしています。私は、第19回　本大会（2015年8月1日　熊本　大会長　山田みどり先生）の教育講演で出席させて以来、本会に加入させていただいています。今回、本研究会会長の玉井　浩先生よりお話をいただき、僭越ながら、お引き受けすることにしました。この様な機会をいただき、玉井先生はじめ本研究会のご担当の先生方に深謝申し上げます。第36回の本研究会は、第19回の熊本開催以来2回目の九州開催で、長崎では初めてとなります。



長崎では、ダウン症候群についての検討の歴史は古く、1965年に医師・教育者を中心に「ダウン症候群研究会」が発足し、1975年にDW.スミスとAA.ウィルソン著の本を翻訳した「ダウン症候群」を出版しています。また、「蒙古症児をもつ親の会（家族会）」が同年発足している歴史もあります。1988年には「バンビの会（染色体障害児・者を支える会）」が患者・家族、医療・福祉・教育・就労関係者が入り込んでの連絡互助会的な役割をもって発足し、2000年より私が会長を拝命しています。

私は長崎大学出身の小児科医で、2007年より現在の職場で様々な遺伝性疾患をお持ちの方、ご家族の支援をしております。ダウン症候群を持つ方に限っても、0歳から60歳代の450名余りの方がお出でになっています。数多くの、お悩みを持たれてお出でになり、一緒に考えさせていただくにあたり、問題解決に向けて不明のことなどを明確にするべく、多くのダウン症者・家族のご協力のもと、様々な検討も行っております。

今回の第36回研究会では、一般演題の他に2つを企画しています。一つは、教育講演として、長年ダウン症児・者の精神的諸問題の対応をされています精神神経科医の今村明先生にご経験を踏まえてのお話をお聞きします。もう一つは、自宅などで歌って踊ることで、何らかのリハビリ―テーションの一助になり、それを各自お持ちのスマートフォンなどで人工知能を用いての自動評価システムの開発を行っている「パタカラプラス」のご案内をしたく存じます。

この時期、長崎では例年、「長崎ランタンフェスティバル」という華やかな催し物が開催されます。是非、長崎にお足を運んでいただき、ダウン症候群についての学びを深めるとともに、長崎の地をご堪能いただくことを願っております。

不慣れな点も多く、ご不便をおかけすることもあるかもしれませんが、スタッフ一同良い会にするべく頑張ってまいりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

第36回日本ダウン症療育研究会大会長
みさかえの園総合発達医療福祉センターむつみの家　近藤達郎

一般演題の募集

一般演題を募集いたします。例のような形で、Wordで演者名、所属、要旨（400字以内）で作成していただき、メールにて kontatsu0721@gmail.com までお送りください（平打ちでも、添付でも可です）。締め切りを2023年11月30日とさせていただきます。ご検討の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

題名：在宅リハビリテーション支援システム「パタカラプラス」の確立における検討

演者：近藤達郎[1)]、三嶋博之[2)]、北原鉄朗[3)]、尾上洋介[3)]、小林健史[4)]、小松知子[5)]、李昌一[6)]

所属：
1) みさかえの園総合発達医療福祉センターむつみの家診療部
2) 長崎大学原爆後障害医療研究所人類遺伝学研究分野
3) 日本大学文理学部情報科学科
4) 北海道医療大学リハビリテーション科学部 言語聴覚療法学科
5) 神奈川歯科大学全身管理歯科学講座障害者歯科学分野
6) 神奈川歯科大学健康科学講座災害歯科学分野

要旨：ダウン症候群を持つ児・者の家族を対象に言語聴覚療法を中心にしたリハビリテーションの状況のアンケート調査を行ったところ、受診希望者が多いせいか、様々な問題を抱えているものの6 - 7歳で終了されている場合が多い結果であった。さらに、近年のCOVID19の影響でリハビリテーション施設の使用制限などをせざるを得ない状況にもなっている。----。（400字以内）